

編集後記

巻頭言で大城先生もおっしゃられています、会長であった志保田務先生が亡くなりました。志保田先生は、この *Journal of I-LISS JAPAN* に関しては編集委員長を務められておりました。

新しい編集委員長が決まるまで、編集次長であった岡田大輔が編集委員長代行を務めます。

前号で、次回の I-LISS 国際大会はフィリピンで 8 月半ば以降と書きました。ただ、議事録でも触れられているとおり、インド チェンナイ市の SRM 大学で 7 月 19-20 日に変更になっています。

特別会員の面地豊先生による、『小説 佐野友三郎』が刊行されました。編集には I-LISS JAPAN が大きく関わっています。詳しくは奥付上の広告をご覧ください。

中国でも library は「圖書館 (簡体字では图书馆)」です。日本で作られた言葉が“逆輸入”され、定着しているわけです。ただ、近年、以下のような主張があると交流のある中国の研究者から教えて頂き、どう思われるか尋ねられました。

- 清朝乾隆年間 (1736-1795) の黎簡による詩『夏日飲書圖書館』に表れる“圖書館”も、黄庭堅 (1045-1105) の詩「還从股肱郡，待詔圖書館」の“圖書館”も、本が多くあるところの意味であり、現代の図書館の意味に近い。
- 1840 年代初頭に *The Encyclopaedia of Geography* が中国語 (『四洲志』) へと訳される際には、“library”は「書館」と訳されている。その後日本には『四洲志』を元とした『海国図志』が持ち込まれており、日本の「書籍館」という言葉は「書館」を元になっているはずだ。

つまり、日本の影響をなるべく少なく見積もる主張です。

対して、送っていただいた顾焘青「日语“図書館”词源考」『大学图书馆学报』2019(5), 2019, p.109-120. <<http://ccj.pku.edu.cn/Article/info?aid=241381429>> は、

- 日本語の「圖書」が中国語由来であることは間違いないが、宋代に中国で用いられていた「圖書室」は書斎の意味である。そして、日本語の「圖書館 (または図書館)」や「圖書室 (または図書室)」は古代中国語と直接的な関係はない。
- 『四洲志』で「書館」と訳された元の語は School や College が多く、元の語が“library”であったのはごく一部である。
- 大切なのは、日本が「書籍館」を「圖書館」へ、つまり「書籍」を「圖書」へ置き換えたことだ。

と反論しています。私には、これらの正否と、そして書籍館の語に書館の影響があるか、なぜ書籍館が圖書館になったのかを判断する力量は持ち合わせていません。そのため、この件に関して私はメールが返せていません。また、これ以降にもいくつかの研究が出されていますが、読めていません。

ただ、近年、自国が起源であるとの主張がいくつも出されるのは、日本に限らずどの国も同じなようです。

(編集委員長代行 岡田大輔)